

# 能登復興に向けた被災地の未来志向と地域のレジリエンス — 輪島市における現地調査の結果より —

---

川澄 厚志

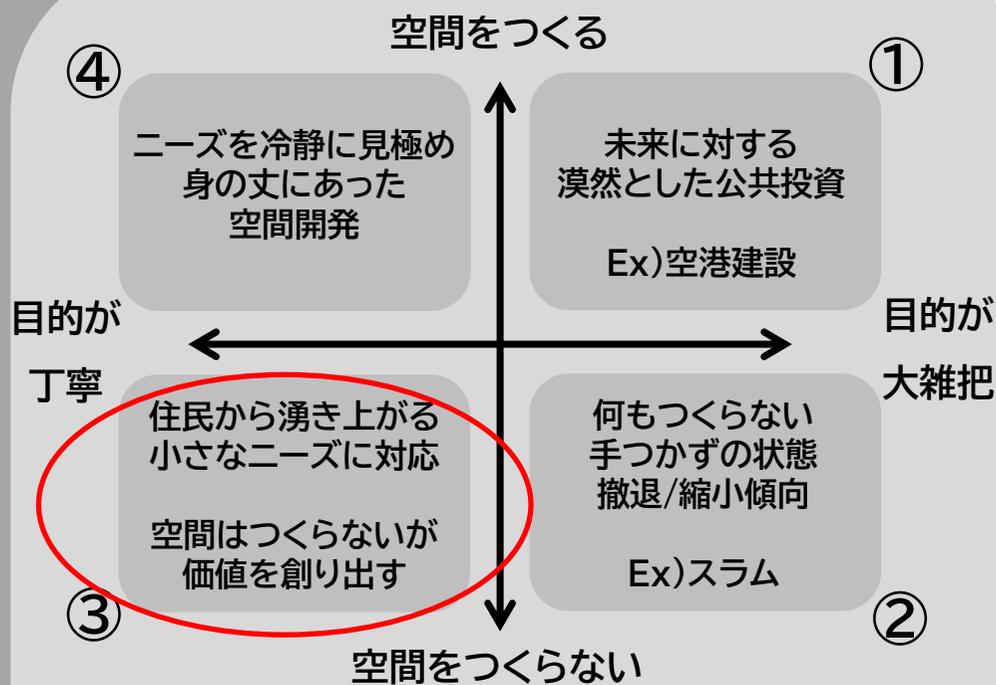
金沢大学 融合研究域 融合科学系/先端観光科学研究所

令和6年能登半島地震と令和6年奥能登豪雨により犠牲となられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災された皆様、ご家族・関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

# 本発表の問題意識と目的: 創造的復興とは何か

## 復旧

震災前の姿に戻す



## 創造的復興

=震災前より良い状態をつくる<sup>2)</sup>

復旧 = 震災前の姿に戻すこと, 災害対応の原則

▶ ガレキ撤去などの災害ボランティア活動

創造的復興 = 震災前より良い状態をつくること

▶ より良い状態である未来志向とは?

▶ レジリエンスを担保した地域再生へ

- ・以前よりも災害に強い状態
- ・自力で成長していける持続可能な状態
- ・新たなつながりが生まれた状態

能登の人々は自律的であるため、**レジリエンス**はキーワード

- ✓ 創造的復興の足がかりとは?
- ✓ 新たな価値を創出することを期待する (左図③)

1) 饗庭伸(2018)「創造的復興のジャッジ」  
<https://www.10plus1.jp/monthly/2018/03/issue-02.php>(2024/4/8参照)

2) 中山久恵(2017)「創造的復興, そして持続可能な地域への復興へ」『現代社会研究』(3)2-20.

# レジリンスに関連する先行研究①

・ 畠山慎二・坂田朗夫・川本篤志・伊藤則夫・白木渡（2013年）、「コミュニティ・レジリエンスの考え方に基づくコミュニティ継続計画（CCP）策定手法の提案」, 土木学会論文集 F6, 第 69 巻 2 号, pp.37-42.

⇒ 東日本大震災の事例からコミュニティの「頑健性」、「冗長性」、「資源」、「即応性」の4つを定量化し評価を行っており、複雑かつ変化していく環境に対する組織の適応能力（復元・回復力）と定義されている

・ フォンドティヴィエット・筒井一伸・長澤良太（2014年）「ベトナム・ダナン市農村部における洪水災害に対するコミュニティレジリエンスの評価」 農村計画学会誌 Vol. 33 No. 1, pp.63-72, 2014

⇒ 「社会資本」、「経済資本」、「環境資本」の3つの視点からレジリエンスの度合いを測定し、ベトナム農村部のコミュニティレジリエンス評価を行っている

・ 馬場健司・田中充（2015年）、「レジリエントシティの概念構築と評価指標の提案」都市計画論文集 Vol. 50 No. 1, pp.46-53

⇒ 都市のレジリエンス性を、都市指標、市民指標、行政指標から評価する手法を提案している

このように**従来のレジリエンスや脆弱性の評価**は、客観的測定を目指して指標が選択・設定され、妥当性を論じてきている

# 調査の概要

## (背景)

令和6年能登半島地震でも、復興にかかる時間が長ければ長いほど、高齢化や過疎化を助長させることが予想される

## (目的)

- (1)令和6年能登半島地震からの復興に向けて、被災者の現状を明らかにする
- (2)創造的復興、復興と観光への期待、経済的レジリエンス、社会的レジリエンス、文化的レジリエンス、未来志向の6つの項目から、どの要因が能登復興に向けた被災地の未来志向と地域レジリエンスにどのように関連しているか明らかにする

## (方法)

項目	内容
調査場所	重蔵神社（輪島市河井町）
調査日	2024年6月8日、6月19日、7月3日
調査対象者	支援物資の配布に集まった被災者
調査方法	構造化面接法
調査員	6/8（8名）、6/19（4名）、7/3（6名） 融合学域先導学類4年：大坂、川端、國分、中島、袴田、松木、 大学院人間社会環境学専攻D1：藤井、川澄（計8名）
回収数	114（男性：33、女性：81）（年齢：57.6歳）



性別	所属	調査日時・場所
<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 正規 <input type="checkbox"/> 非正規 <input type="checkbox"/> 自営業 <input type="checkbox"/> 農業 <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> 無職 <input type="checkbox"/> その他( )	
年齢	家族構成	調査者名
<input type="checkbox"/> ~10代 <input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代 <input type="checkbox"/> 70代 <input type="checkbox"/> 80代 <input type="checkbox"/> 90代以上	<input type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/> 核家族 <input type="checkbox"/> 三世代以上世帯	

変数	質問項目
0. 基本情報	1. 現在の居住地 ・震災前と同じ ・別の居住地： _____ 県 _____ 市町村 2. 震災の被害状況①(物的被害) (複数回答可) ・家屋被害 (全壊 ・ 半壊 ・ 一部損壊) ・家財の損失 ・被害なし ・その他 _____ (質問2) 3. 震災の被害状況②(経済的被害) (複数回答可) ・仕事の喪失 ・収入の減少 ・負債の増加 ・経済的被害なし ・その他 _____ (質問3) 4. 避難経験 (複数回答可) ・一次避難 _____ (避難所・親戚・知人宅・車・自宅などどこに) ・二次避難 _____ (どこに) ・避難経験なし 5. 現在の生活状況 ・仮設住宅での生活 ・賃貸住宅での生活 ・親戚宅・知人宅での生活 ・自宅での生活 ・その他 _____ (質問5)
1. 創造的復興 能登の特色と強みを取り入れた復興	6. 私は、地域の特色(農林水産業、観光業、産学官金、伝統産業、世界農業遺産、人口減少と関係人口の拡大等)を取り入れた復興計画が進められることに期待している ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う ●具体的に(どんな地域の特色に着目しているか?) : _____ (質問6) 7. 私は、水素などの新しいエネルギーや技術を取り入れた復興計画が進められることに期待している ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う 8. 私は、若者やクリエイティブ人材をはじめとした関係人口(地域外からの交流者や地域に関わる人々)の増加に期待している ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う ●理由: _____ (質問8) 9. 私は、能登の魅力を生かした新しい観光の取り組み(能登ブランドの構築)に期待している ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う
2. 復興と観光への期待 被災地の復興状況を伝え、地域の魅力を発信	10. 私は、交流人口や関係人口など外部者の受け入れに対して反対である ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う (※調査2回目以降除外) 11. 私は、地域経済を活性化させるための方策の一つとして、復興ツーリズムに取り組むことを期待している ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う 12. 私は、復興ツーリズムを通じて、震災の教訓が広く発信されることを期待している ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う
3. 経済的レジリエンス 災害時においても経済活動を維持・回復する力や適応力	13. 私の住んでいる地域では、災害時でも事業継続や雇用維持の取り組みが行われた ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う 14. 私の住んでいる地域では、過去の震災における経済的な教訓を今回の震災で生かすことができた ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う

<p><b>4. 社会的レジリエンス</b></p> <p>災害時においても、地域コミュニティの機能や住民同士のつながり、助け合いを維持・回復する力や適応力</p>	<p>15. 私の住んでいる地域では、災害時でも住民同士の助け合いが行われた          ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う</p> <p>16. 私の住んでいる地域では、日頃の地域コミュニティ活動が震災時の対応力につながった          ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う</p> <p>17. 私の住んでいる地域では、過去の震災経験から得た教訓を住民同士の支え合いに生かすことができた          ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う</p> <p>18. 私の住んでいる地域では、震災後も地域の一体感や結束が維持されている          ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う</p> <p>19. 私の住んでいる地域では、過去の震災経験を通じて得た知見で構築された地域のレジリエンスが復興に活かさせようである (※調査2回目以降除外)          ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う</p> <p>●理由： (質問19)</p> <p>20. 私は、近隣住民の方々とコミュニケーションを満足にとれていると思う          ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う</p>
<p><b>5. 文化的レジリエンス</b></p> <p>災害時においても文化的な活動や価値観を維持・回復する力や適応力</p>	<p>21. 私の住んでいる地域では、震災後も地域の伝統行事や祭りが継続された。          ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う</p> <p>22. 私の住んでいる地域では、日頃の文化的活動が震災からの心の復興に寄与した。          ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う</p> <p>23. 私の住んでいる地域では、過去の震災経験を通じて培われた地域の価値観が復興に活かさせようである          ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う</p>
<p><b>6. 希望</b></p> <p>目標を持ち続け、必要な時には目標への道筋を変え、目標を達成しようとする姿勢</p>	<p>24. 現在のところ、いろいろうまくいっている方だと思う          ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う</p> <p>25. 地域のなかで自分の役割を見つけ、前向きに取り組める          ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う</p>
<p><b>7. 効力感</b></p> <p>挑戦的なタスクを引き受け、必要な努力を行うことや、成功できるという自信があること</p>	<p>26. 何らかの形で地域に役立つ自信がある          ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う</p> <p>●具体的取組み： (質問26)</p> <p>27. 意見を求められた時に、役立つ発言ができる自信がある          ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う</p>
<p><b>8. レジリエンス</b></p> <p>問題や困難に陥っても、回復し、時には元の状態以上になること</p>	<p>28. 失敗した時でも、前向きに立ち直ることができる。          ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う</p> <p>29. 地域のなかでの小さな困難にうまく対処できる          ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う</p>
<p><b>9. 楽観性</b></p> <p>物事はうまく進むという信念や、良い出来事は内的（自分に原因）、永続的、普遍的に捉え、悪い出来事はその逆に捉える傾向</p>	<p>30. 地域において、基本的に前向きに楽しく活動している          ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う</p> <p>31. 高い目標でもやってみればなんとかなると思う          ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う</p>
<p><b>10. 未来志向</b></p> <p>地域の将来に対する前向きな意識や態度</p>	<p>32. 私は、この地震からの復興が、地域をより良くする機会でもあると考える          ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う</p> <p>●理由： (質問32)</p> <p>33. 私は、これからも輪島に住み続けたいと思う          ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う</p> <p>34. 私は、地域の将来に明るい展望をもっていると思う。          ・全くそう思わない ・そう思わない ・どちらともいえない ・そう思う ・非常にそう思う</p> <p>●理由： (質問34)</p>

# 調査内容

質問数：32問 (※調査2回目以降、質問10,19除外)

質問項目：

「0.基本情報」「1.創造的復興」「2.復興と観光への期待」「3.経済的レジリエンス」「4.社会的レジリエンス」「5.文化的レジリエンス」「10.未来志向」「6.希望」「7.効力感」「8.レジリエンス」「9.楽観性」

分類	調査項目
属性	性別(男性・女性・その他) 年代(10代～80代) 現在の居住地(震災前と同じ・別の居住地)
復興関連要因	創造的復興、復興と観光への期待 経済的レジリエンス 社会的レジリエンス 文化的レジリエンス 未来志向
心理的資本	希望、効力感、レジリエンス、楽観性 ⇒ <b>個人</b> の概念を測定(地域に住んでいる私)

変数	概念的定義
創造的復興	能登の特色と強みを取り入れた復興
復興と観光への期待	被災地の復興状況を伝え、地域の魅力を発信することを通じて復興と観光への期待を高める思い
経済的レジリエンス	災害時においても経済活動を維持・回復する力や適応力
社会的レジリエンス	災害時でも、地域コミュニティの機能や住民同士のつながり、助け合いを維持・回復する力や適応力
文化的レジリエンス	災害時においても文化的な活動や価値観を維持・回復する力や適応力
未来志向	地域の将来に対する前向きな意識や態度 ⇒ <b>地域</b> に対する概念を測定(地域の未来、地域社会への将来展望)

出典：藤井善仁、川澄厚志、2024年度農村計画学会全国大会（於神戸大学、2024年11月30日）、パワーポイント資料

# 調査結果① (復興と観光への期待)

11.私は、地域経済を活性化させるための方策の一つとして、復興ツーリズム（防災教育、語り部）に取り組むことを期待している（N=112）

⇒ **平均値は0.54**

12. 私は、復興ツーリズムを通じて、震災の教訓が広く発信されることを期待している（N=113）

⇒ **平均値は0.72**

表：問11の結果

全くそう思わない	6
そう思わない	21
どちらともいえない	18
そう思う	41
非常にそう思う	26
無回答	2
計	114

表：問12の結果

全くそう思わない	3
そう思わない	16
どちらともいえない	15
そう思う	55
非常にそう思う	24
無回答	1
計	114

## 調査結果② (経済的・社会的・文化的レジリエンス)

レジリエンス	質問項目	平均値
<b>経済的</b> <b>-0.58</b>	13.私の住んでいる地域では、災害時でも事業継続や雇用維持の取り組みが行われた (N=112)	-0.491
	14.私の住んでいる地域では、過去の震災経験から得た経済的な教訓を今回の震災で生かすことができた (N=112)	-0.661
<b>社会的</b> <b>0.27</b>	15.私の住んでいる地域では、災害時でも住民同士の助け合いが行われた (N=112)	0.605
	16.私の住んでいる地域では、日頃の地域コミュニティ活動が震災時の対応力につながった (N=111)	0.279
	17.私の住んでいる地域では、過去の震災経験から得た教訓を住民同士の支え合いに生かすことができた (N=111)	-0.090
	18.私の住んでいる地域では、震災後も地域の一体感や結束が維持されている (N=110)	0.318
	20. 私は近隣住民の方々とコミュニケーションを満足にとれていると思う (N=109)	0.229
<b>文化的</b> <b>-0.50</b>	21.私の住んでいる地域では、震災後も地域の伝統行事や祭りが継続された (N=108)	-0.935
	22.私の住んでいる地域では、日頃の文化的活動が震災からの心の復興に寄与した (N=105)	-0.343
	23.私の住んでいる地域では、過去の震災経験を通じて培われた地域の価値観が復興に活かそうである (N=103)	-0.223

# 農村版心理的資本尺度

- 将来や仕事に対して、前向きに活動を行い、困難を乗り越える個人の力
  - 農村地域づくり活動へ適用可能な心理的資本の指標
- : 「希望」「効力感」「レジリエンス」「楽観性」

▶ 今回の調査では縮約型を使用

(『農村版心理的資本尺度の開発(2024)』より)

Psychological capital scale applicable to Japanese rural community

次元	標準型の質問文	縮約型
希望	地域のなかで自分自身の目標を設定して努力できる	×
	現在のところ、いろいろうまくいっている方だと思う	○
	地域のなかで自分の役割を見つけ、前向きに取り組める	○
効力感	何らかの形で地域に役立つ自信がある	○
	大抵の人と会話をうまく進められる自信がある	×
	意見を求められた時に、役立つ発言ができる自信がある	○
レジリエンス	失敗した時でも、前向きに立ち直ることができる	○
	地域のなかでの小さな困難にうまく対処できる	○
	自分には失敗や逆境を乗り越える力があると思う	×
楽観性	地域において、基本的に前向きに楽しく活動している	○
	自身の活動は地域の将来に良い影響を与えられると思う	×
	高い目標でもやってみればなんとかなると思う	○

注：縮約型に含まれる項目に○，含まれない項目に×を付した。

中塚ら (2024) Table 9 より抜粋

# 分析結果①：年齢層別

年齢区分	平均値	度数	標準偏差	最小値	最大値
10代～50代	25.42	38	4.84	16	38
60代～80代	22.95	65	5.42	12	34
合計	23.86	103	5.32	12	38

## 年齢と心理的資本の関係

若年層（10代～50代, n=38）と高齢層（60代～80代, n=65）の2群に分類  
⇒各群の心理的資本得点の特徴を比較

## 結果

10代～50代と60代～80代の間で統計的に有意な差統計的に有意な差が認められた（ $p=.022$ ）

## 解釈

10代～50代は、60代～80代と比較し、有意に高い心理的資本得点を示した  
⇒若年層が高齢層よりも高い心理的資本を有していることがわかった

## 分析結果②：性別×現在の居住地

性別	現在の居住地	度数	平均値	標準偏差	p値
(男性) 心理的資本得点	震災前と同じ	22	26.50	4.21	<0.001***
	別の居住地	8	18.63	4.07	
(女性) 心理的資本得点	震災前と同じ	59	23.59	5.07	0.599
	別の居住地	13	22.77	5.15	

被災者の現在の居住地

震災前と同じ場所に居住している人と別の居住地にいる人との比較を行った

結果 (男性)

震災前と同じ居住地にとどまった男性の心理的資本得点の平均値は26.50であった  
⇒別の居住地に移動した男性の得点は18.63であった  
⇒現在の居住地に関し、別の居住地に移動した男性の得点が低いことがわかった

男性は住み慣れた場所を離れることで、心理的資本に影響を及ぼす可能性があることが読み取れる  
⇒統計的に有意な差がみられた (p値 < 0.001)  
⇒ただし、別の居住地に移動した男性のサンプル数が小さい (n = 8)

結果 (女性)

女性は、現在の居住地に関し、心理的資本得点に大きな違いは見られなかった  
⇒統計的に有意な差が得られなかった (p値 = 0.599)  
⇒女性が居住地の変更に対して、男性ほど心理的資本に影響を受けない可能性がある

## 分析結果③：年齢層 × 現在の居住地

グループ	居住地	n	平均値	p値
男性若年層 (10代-50代)	震災前と同じ	12	27.42	.720
	別の居住地	1	26.00	
男性高齢層 (60代-80代)	震災前と同じ	10	25.40	.001
	別の居住地	7	17.57	
女性若年層 (10代-50代)	震災前と同じ	19	23.63	.610
	別の居住地	5	24.80	
女性高齢層 (60代-80代)	震災前と同じ	40	23.58	.325
	別の居住地	8	21.50	

高齢層の心理的資本が相対的に低調なことを前提とする

⇒震災前と同じ居住地に留まったのは若年層中心の可能性  
⇒別の居住地に移ったサンプル数が少ない男性8人が高齢層に偏っている可能性がある。

### 疑似相関の可能性

年齢効果が強く影響する疑似相関の可能性を排除できない  
⇒年齢層を考慮した分析を行った

### 結果

高齢男性層のサンプルサイズが小さいものの (n=17)、有意確率が0.1%水準を下回った  
⇒統計的に意味のある差と考えられる

### 解釈

仮に、年齢効果による疑似相関であれば、女性高齢層や若年層でも同様の差が見られるはず  
⇒しかし、実際には高齢男性層のみで有意な差が見られた  
⇒高齢男性特有の居住地移動の影響と考えられる

# 被災者のニーズ – 定性的観点から

## ▶ 被災者の不満

- 「被災後の住所照合の手続きだけで三つも書類を提出しないと行けない何とかしてほしい」
- 「公費解体の手続きのためにハンコが20個も必要。時間がかかる。」
- 「家の塀は震災被害補償の対象にならない。どうして」
- 「震災の被害具合で軋轢が生まれ、地域間のコミュニケーションが薄れてしまって悲しい」

# 心に残った“被災者の声”

“震災時の一部始終を事細かに伝えてくれた”

“津波警報によって、助けられたはずの命を見捨ててしまった  
あの警報は本当に必要だったのか”

“早計だったね”

## “ありがとう”

“新しい人が来ても、今の輪島の形を変えたくはないね”

“私たちは体力がもうない。だから、輪島を支えてくれるならどんな形でもついていきます！”

# まとめ

## ● 年齢層による特徴

- 心理的資本の高い若年層（10代～50代）はより積極的な役割を果たす可能性
- 社会的レジリエンスや文化的レジリエンスの強化にも寄与し地域の未来志向に好影響を与える存在の可能性
- 高齢層への支援と介入が必要（自分たちには体力がないとの声、観光者も含む関係人口への期待）

## ● 居住地変更と性別

- 男性は住み慣れた地域を離れることで心理的資本に大きな影響
- 女性は居住地変更による影響は比較的小さい

## 性別や年齢層に応じた柔軟な支援策の検討が求められよう

（以上、藤井善仁、川澄厚志、2024年度農村計画学会全国大会）

## 【今後の展望】

- 被害状況による住民同士のコミュニケーションとコミュニティの変化
- 経済的レジリエンス、社会的レジリエンス、文化的レジリエンス、未来志向にも影響を与えている可能性がある

## (ご参考) レジリンスに関連する先行研究②

### <VCA(International Federation of the Red Cross and Red Crescent Societies : IFRC)を対象とした研究>

・ Eleni Ioanna Koutsovili ・ Ourania Tzoraki ・ Alitheia Aliko Kalli ・ Sotiris Provatas ・ Petros Gaganis (2023年), 「Participatory approaches for planning nature-based solutions in flood vulnerable landscapes」, Environmental Science and Policy Vol.140, pp.12-23

⇒洪水多発地域でのコミュニティベースの災害準備プログラム作成

・ Prabhakar, S. (2015年), 「Methodology and Guidelines for Vulnerability and Capacity Assessment of Natural Resource-Based Communities for Climate Change Adaptation」 NABARD and Adapt Asia-Pacific.

⇒気候変動へ適応するコミュニティを目指してVCAツールの方法を論じた研究

・ John Twigg (2014年), 「Attitude before method: disability in vulnerability and capacity assessment」, Disasters Vol.38(3), pp. 465-482

⇒VCAツールへの障害者の参画の実態についての文献レビュー研究

VCAツールの事例研究では、**農村地域を対象地としたものが多い**が、いずれの研究も分析対象ツールに**RS(Resilience Star)**は含まれていない

→今後、**RSワークショップ**を行い**地域のレジリエンスを可視化**することも可能!

# (ご参考) IFRCのレジリエンススターの方法

## レジリエンス特性



8つの特性に対するコミュニティが有する**能力(+)**、**脆弱性(-)**を分析し、地域がよりレジリエンスを高めるために開発された参加型プロセス

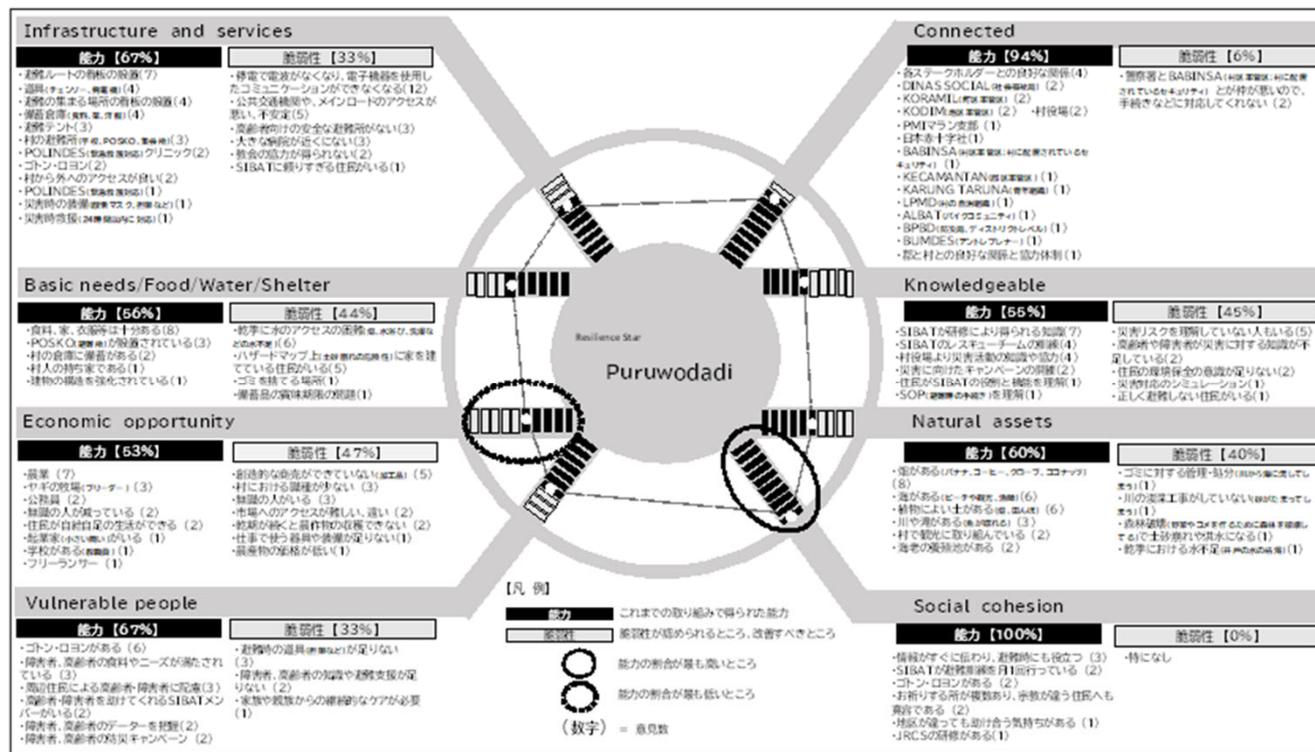


図:レジリエンススターの例

- (1)参加者に事前の説明を行う (地域のレジリエンスの意味)
- (2)レジリエンス特性を参加者で共有する(8つの特性はコミュニティの特徴ごとに変更しても可)
- (3)各特性における**能力(+)**と**脆弱性(-)**について意見を出す(KJ法が有効)
- (4)参加者全員で結果より類似点・相違点をまとめる
- (5)脆弱性を減らせるよう、今後どのような行動でこれからのレジリエンスを高められるのか議論・提案・これからの行動計画の策定

ご清聴ありがとうございました。